

新型コロナウイルスとOCLCサービス（EZproxy編）

紀伊國屋書店OCLCセンター

以下はOCLC作成の「[COVID-19 and OCLC Services](#)」よりEZproxyに関する部分の和訳です。

EZproxyホステッド版：使用量が増加している時、EZproxyの安全で安定した稼働を保証するためにOCLCがしている事

EZproxyホステッド版が正常に機能している事を確認するため1日24時間、週7日監視しています。また、EZproxyホステッド版とネットワークプロバイダー間のネットワーク帯域幅も監視します。

EZproxyホステッド版環境に対して定期的にセキュリティクエリを実行し、潜在的なセキュリティ問題を検出して通知します。

ご利用者のリモートアクセスに対する需要の高まりに際し、準備はできています。EZproxyホステッド版環境では、各教育機関専用のインスタンス使用量を大幅に増やす事ができます。

EZproxyの設定で変更を検討するもの

EZproxyホステッド版をお使いの場合、使用量の増加に応じてOCLC側で必要、適切な変更を行います。**EZproxyオンプレミス版をお使いの場合は、貴館にて以下を行う事をお勧めします。**

- サーバーリソース：貴館のITご担当者と協力の上、サーバーリソース（メモリ、ディスク容量、CPU容量）が通常の値内であることを確認します。サーバーリソースが適当かどうかは、EZproxyを実行するオペレーティングシステム（WindowsまたはLinux）によって異なります。
 - この間、ログファイルはより速く拡大します。ログローテーションに対する戦略と、ログファイル用の十分なディスク容量がある事を確認してください。
 - EZproxyのユーザーが多いほど、必要なメモリの量が多くなります。大規模な

システムでは、EZproxyプログラム自体（Linux）専用の少なくとも200MBの物理メモリが必要です。

- 一般に、EZproxyによってCPUが過剰に使用される事はありませんが、user.txtファイルに複雑な認証または承認ルールがある場合、ユーザーの数が増えるにつれて、より多くCPUが使用される事になります。
- ネットワーク帯域幅：リモートのみ状況のユーザーのあらゆるアクセスがEZproxyを通過するため、ITご担当者とは協力してネットワーク消費を測定し、容量が足りているかどうかを確認する事が重要です。OCLCには、ユーザーごとに消費されるネットワーク帯域幅の正確な数値は存在しません。この数は、アクセスされるコンテンツのタイプによって大きく異なるためです。
- EZproxy設定：サポートWebサイトで所属機関のドキュメント制限を確認してください。MaxSessions、MaxConcurrentTransfers、およびMaxVirtualHostsの設定を確認します。これらはEZproxy管理UIで「Server Status」を選択してから「Miscellaneous」をクリックして表示できます。次のスクリーンショットは、サンプル出力を示しています。

Miscellaneous

```
Peak sessions active/limit: 4/500  
Peak concurrent transfers active/limit: 4/200  
Peak virtual hosts/limit: 284/10000
```

貴館がEZproxyを同時に使用する多数の利用者を想定している場合（同時に4000セッション以上）、EZproxy v7.0は64ビットのメモリサポートを提供し、以前のリリースでの2GBのメモリ制限を削除します。[リリースノート](#)をよく読んだ後でv7.0にアップグレードすることをお勧めします。